

## マーケットの動き（2023年3月27日～3月31日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

欧米の金融システム不安に対する警戒感が和らぎ投資家のリスク回避姿勢が後退したことで、米国国債は売りが優勢となりました。週末には四半期末の持ち高調整の動きに加え、2月の米国PCE（個人消費支出）物価指数の伸び率が市場予想を下回ったことで米国国債に買いが入り、金利上昇幅を縮めて週を終えました。

欧州国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

## 投資環境見通し（2023年3月）

## 長期金利は、米国、欧州（ドイツ）とも上昇余地は限定的

**米国：**長期金利は、労働需給のひっ迫やインフレの鈍化ペースを巡る先行き不透明感が上昇圧力と考えられますが、金融市場における今後の利上げの織り込みについては相当程度進んでいるとみられることや、景気後退に対する懸念も依然として残ることから当面の上昇余地は限定的と考えられます。

**欧州：**ドイツ長期金利は、コアCPI（消費者物価指数）の高止まりと賃金上昇圧力への警戒感からECB（欧州中央銀行）は3月理事会での0.5%利上げの意向を示しており、量的引き締め開始に対する警戒感などを踏まえると、長期金利は低下しづらい環境と考えられます。ただし、利上げ織り込みは相当程度進んでいるとみられることから、当面の上昇余地も限定的と考えられます。

	3月31日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.49	0.11	▲0.42	▲0.30	1.17
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	510.10	1.55%	1.28%	▲1.50%	▲0.50%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

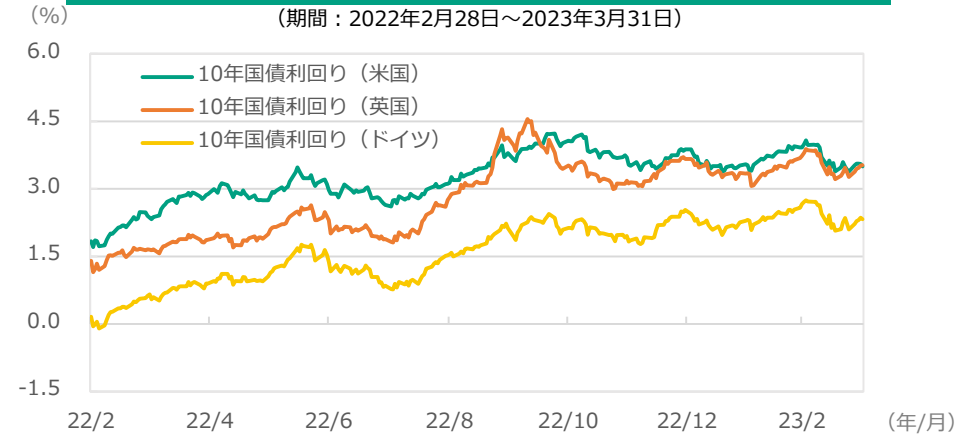
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202303\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202303_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

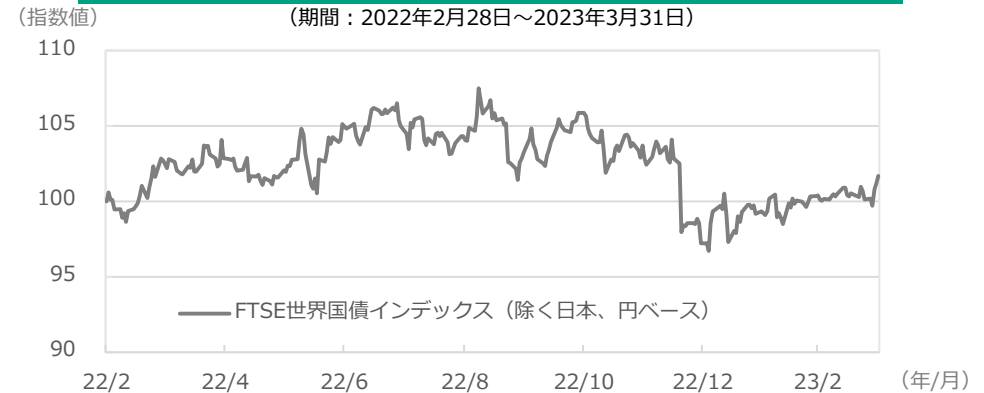
## 主要国国債利回りの推移

（期間：2022年2月28日～2023年3月31日）



## FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2022年2月28日～2023年3月31日）



※2022年2月28日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成